

「本が大好き」 物語への愛情を届け続ける

読み聞かせグループ

お話しどんぐりの皆さん



「『どんぐり』って響きがかわいくて、自然豊かなこの町らしいから」。グループ名の由来を教えてくださいました皆さん。梅高区にある【どんぐりハウス】で手作りした紙芝居や人形劇で使う小道具を手にとり記念撮影。

11月21日に開催された「第29回静岡県図書館大会」で、読み聞かせグループ「お話しどんぐり」が静岡県読書推進運動協議会長賞を受賞しました。読書活動の発展に努め、実践的な活動を継続しているグループに贈られる同賞。お話しどんぐりは、町内外の保育園や小中学校、高齢者施設などで読み聞かせ活動を続け、多くの人に「お話し面白さ」を届けていることが評価されました。

お話しどんぐりは、平成4年に読み聞かせボランティアとして発足。現在18名で活動しています。メンバーの皆さんはお仕事や家事などの傍ら、自分たちの特技を活かして、読み聞かせだけでなく人形劇や影絵のほか、紙芝居などに挑戦しています。「面白いと思ったらなんでもやってみる!」「上手いかなかったら皆で反省して、改善、工夫しているよ」と口をそろえます。

「最近では活動の幅が町外まで広がって、たくさんの人にお話を聞いてもらえる機会が増えた」と会長の大石充代さん（久保尾区）は話し、「お話しどんぐりはこれからも『本が大好き』な人で集まって、無理せず楽しみながら活動を続けていきます。そして本の大切さや物語の面白さをもっと届けていきたい」と笑顔で続けました。

編集 幸記

奥大井ふるさと祭りの取材をしました。紅葉が色づき、風に吹かれて転がる落ち葉の音が秋を感じさせてくれます。転校を機にしばらく川根本町を離れていたため、小学生の頃に祖父母に連れてきてもらい金魚すくいをした記憶がよみがえります。子どもたちを見てみると、昔の自分を見ているようでどこか懐かしい気持ちでした。コロナ禍での外出規制で静まり返った数年間でしたが、久しぶりに川根本町の活気を感じる事ができました。

鈴木 雄大

樺を繋ぐ瞬間、選手たちは何を思っているのだろうと、毎年考えています。渡すことができた安堵感と繋がねばという使命感が交错する中継所。コロナ禍で駅伝関係者以外は立ち入れないその聖域を、今年もただ遠くからファイナダー越しに眺めていました。そっとエールを送りながら。

梶山 拓郎